

『雨降って水いっぱい』 3歳児 5月 伏見こども園

エピソード

土砂降りの雨が降っていた日、園庭には大きな水たまりがたくさんできていました。Aくんが「雨ためたい」と保育者に伝えたので、様々な大きさや色のプラスチック容器を用意しました。容器を手にとったAくんは雨水を受けとめようと手を前に出し、ポツと音を立てて屋根から落ちてくる雨水を受けとめると一滴入りました。容器を見つめた後、先程よりも大きなポツという音がしてまた、雨水が一滴入りました。Aくんはあっという表情を見せた後、近くの水道から容器に水を入れ、廊下から園庭の水たまりに向かって水を飛ばしました。繰り返し水を入れては飛ばして遊ぶ姿があったので、保育者は水の入ったタライを用意しました。Aくんはタライから水を容器に入れては水たまりに向かって飛ばし、「わあ」と、嬉しそうに声を出していました。その様子を見た数名の友達も同じように容器に水をくみ、水を飛ばしたり、流したりしていました。雨が降ってできた水たまりが水を飛ばし、流すことでどんどん大きくなっていくとともに、雨もたくさん降ってきて、さらに水たまりが大きくなっていきました。

子どもの育ちや学び

雨ためられるかな
(やってみよう)



水を入れて飛ばしてみよう
(やってみたい)



水たまり大きくなってきた
(ワクワク)



水いっぱい(面白さ・嬉しさ)

- ・雨が降っている様子を見て、「雨をためる」という気持ちが生まれ、容器で受けとめる。
- ・容器に雨水が入る音を聞いて入ったことを感じたり、見て知ったりする。
(自然の音・感触)
- ・地面に溜まっている水たまりから水遊びの経験が連想され、容器に水を入れて飛ばそうとする。
(形の無いものを投げる・力の調節)

Aくんの様子を見て同じように水を飛ばしてみようとする。

水を飛ばしたり、流したりすることで水たまりが大きくなっていく、その面白さを“見る”ことで感じる。
(偶然の出来事への興味・量)

雨が降る、水たまりができる、雨がたくさん降ることで水たまりが大きくなることから自然を感じる。(面白さ・不思議さ)
→自然と子どもの姿(ひと)とのつながり

保育者の思い

- ・「雨ためたい」という思いが実際にできるように、様々な大きさや色のプラスチック容器を用意しました。
- ・容器に雨水を受けとめようとする姿を保育者も傍で見守り、一緒に容器に雨水が入った音を聞いたり、見たりしました。
- ・どうして水道から容器に水を入れようとしたのか今でも分かりませんが、外遊びをする時のように水を使って遊びたかったのかな。
子どもにとっては雨水と水道の水は同じものとして捉えていたのかもしれない。
- ・繰り返し水道から容器に水を入れ、園庭の水たまりに向かって飛ばす様子から、「水がたくさんほしい」「水たまりが大きくなることを楽しんでいる」と感じました。水が入ったタライを用意することで繰り返し水を飛ばしたり流したりすることや、水たまりが大きくなることを見ていろいろなことを感じてほしいと思いました。

家庭だったら・・・

雨の日でも「外で遊ばないの?」という声や、雨が降る様子を見て「雨の音がするね」と、保育者に伝える子どもの姿があり、微笑ましいです。雨の日だからこそ楽しんだり、感じたりできることを大切にしていきたいですね。